



「トランポリン選手育成が夢」と語る虻川さん

キラットさん

BEAMBITIOUS

『トランポリン日本代表』

大館高校 2年

虻川 由作さん

今回の「キラットさん」は、七月アメリカ・サンデーエゴで行われた「インドパシフィックトランポリン競技選手権大会」に出場した虻川由作さんです。

虻川さんがトランポリンを始めたのは小学五年生の時。親戚の人にさ

そわれて始めた虻川さんはめきめきと上達し、日本代表として国際大会へ出場するまでになりました。

五年七月に参加した「インドパシフィックトランポリン競技選手権大会」での成績は、十五、十七歳の部で個人三位、二人組で演技を行うシンクロナイズドで二位にはいる健闘をみせました。

演技は十種類の技を連続して行いますが、虻川さんが得意とするのは、体操競技の「ムーンサルト」のような「ハーフィンハーフアウト」という技。トランポリンはとても危険なスポーツで、練習中に首から落ちて背骨を大げがしたこともある虻川さんは「ちよつとの油断から体がぶれて大げがにつながるので、集中力を欠かせません」と話してくれました。

今年ブームをよんでいるスノーボードが趣味で、根っからのスポーツ好き。日曜日まで大鰐スキー場で楽しんでます。将来はトランポリンを続けられる体育大学への進学を希望していて「子供たちにトランポリンを指導して、世界大会で優勝できるように選手を育てたい」と夢を語ってくれました。

弘前発 → 大館着



前略

大館市民になりました

(47)

☆今回は南ヶ丘の中村均さんご一家です。

Q・ご家族は何人ですか？

妻のこずえと長男の拓哉と次男の植佑の四人です。

Q・どちらからおいでになりましたか？

昨年の七月に弘前市から来ました。

Q・大館の印象はいかがですか？

霧が多い街という印象を受けました。朝見渡す限り霧が立ちこめる景色を何度か目にしましたが、なかなか幻想的です。それから四方が山に囲まれ、自然がいっぱい残っている街という印象です。コンクリートより土の方が好きです。自然の豊かさが気に入っています。

Q・食べ物や言葉はどうですか？

中山ナシは味がいいですね。弘前の出身なのにリングョリナシが好きで、ナシの本場に転勤できたことを喜んでます。それに、トンプリもおいしいですね。味はあまりないですが、かみつぶすときの感触がおいしいと感じさせるんでしょうね。言葉が分からなくて不自由したことはないし、大館の言葉はイントネーションがやわらかくて好きです。

Q・大館にどんなことを望みますか？

神明社の祭典をもっとPRしたらいいと思います。山車も立派なものだし、市外からも観光客をたくさんよべる祭だと思えますよ。それに、メインとなる観光施設も欲しいですね。それから、街並みの景観整備にもっと力を入れて欲しいですね。必要ならある程度規則で規制してもいいと思います。



均さんと奥さんのこずえさん、長男の拓哉ちゃん（前列右）、次男の植佑ちゃん